

活動実践の募集解説文

【募集内容: 道徳授業および学級活動の実践記録】

全国の先生方が日々の実践で培った、道徳教育や学級活動に関する取り組みを募集します。当財団の100周年記念事業のコンセプトである「つなぐ」、そして「対話と共感」をテーマとした実践を歓迎します。

【提出形式: PDF データ】

実践記録は、以下のフォーマットに沿ってPDFデータでご提出ください。見本をつけていますが、1～2枚目にはは①目的・ねらい、②活動のまとめ、③挙げられた成果をまとめてください。3枚目以降の配分は見本を参考にして、自由に決めていただいて結構です。

【評価基準】

ご応募いただいた実践は、以下の点を中心に評価します。

1. 「つなぐ」の視点:

- 教員、子ども、地域、家庭など、多様な関係者との「つながり」をどのように生み出したか。
- 子どもたち同士、あるいは子どもと教員の間で、どのように「対話と共感」が育まれたか。

2. 成果と汎用性:

- 子どもたちの行動やクラスの雰囲気具体的な変化が見られたか。
- 他の教員が参考にしやすく、様々な学校や学級で活用できる内容か。

3. 創造性と独自性:

- (ア) AI や ICT などの現代的な技術をどのように活用し、より良い教育を目指したか。
- (イ) 貴財団の理念である「共育」(教師・子ども・地域が共に育ち合う)を体現するユニークな実践か。

優秀な実践記録はサイト上で紹介させていただくほか、今後の活動研究や表彰の対象となる可能性もあります。全国の教育現場に貢献する実践の共有を心よりお待ちしております。

【実践見本の解説】

1. 実践概要

見本では実践全体の概要を紹介しています。いじめ問題の未然防止と被害生徒の心の回復を目的に、ピアサポート活動を展開する方針を示し、活動のまとめと成果を端的に整理しています。

2. 目的・ねらい

本スライドでは、いじめ防止、被害生徒の心の回復、生徒同士の支え合い、居場所の再構築という4つの柱を掲げ、活動の根本的な狙いを明確化しています。

3. 活動の全体像

ここでは具体的な取り組みの全体像を示しています。ワークショップ、心理カウンセラーを交えた対話、道徳授業、さらに生徒主体の『心のカフェ』といった多面的なアプローチを展開しました。

4. 活動の時系列（1学期）

1学期は、ロールプレイによる道徳授業、教師向け研修、そして生徒有志によるピアサポート開始といった準備・立ち上げ段階に重点を置きました。

5. 活動の時系列（2学期）

2学期は、いじめ発生クラスでの対話の場、個別面談、全校的なワークショップなど、活動が本格化し、生徒間の信頼関係や共感力の向上を目指しました。

6. 活動の時系列（3学期）

3学期には振り返り会や全校アンケートを通じて成果を確認し、3月には保護者や地域住民も交えた成果発表会を開催しました。これにより学校全体で『共育』の実感を共有できました。

7. 具体的な取り組み

道徳授業『つながる教室』では教材を活用した対話的学習を展開しました。また、生徒が自主的に運営する『心のカフェ』は安心できる居場所となり、学校全体に広がる効果を持ちました。

8. 成果

活動の成果として、生徒の8割が共感力向上を実感し、いじめ報告件数がゼロとなりました。また、孤立していた被害生徒が友人関係を回復し、学校生活への参加が活発になりました。

9. 生徒の声

生徒の声としては、加害経験者の反省、被害経験者の安心感、見守る生徒の雰囲気改善の実感、ピアサポート参加者の楽しみ、担任に相談できなかった生徒の安心、グループ活動を通じた成長など、多様な変化が寄せられました。

10. 考察と今後の展望

本実践から得られた考察は、単なる指導ではなく生徒同士のつながりの重要性です。教師はファシリテーターとして関わり、加害生徒も含めて対話を促進することで、学校全体の人間関係が改善しました。今後は年間計画化や教員研修、保護者・地域との連携強化を進め、持続可能な取り組みとして定着させることが課題です。

【その他】

ご提出に当たっては、募集案内をご覧ください。ご応募いただいた作品は、教育委員会及び元校長など、財団所属の教育経験豊富なスタッフが、厳正に審査に当たります。

実践記録 提出例：中学校のいじめ問題

〇〇県〇〇私立〇〇中学校
氏名〇〇〇〇

タイトル：「つながる」を育むピアサポート活動
～ 居場所を失った生徒のための「対話と共感」の教室 ～

1. 目的・ねらい

いじめの未然防止と、いじめを受けた生徒の心の回復を目指し、生徒が主体的に他者を支え合う「ピアサポート」活動を道徳の時間と学級活動で展開する。学級内の孤立を防ぎ、生徒一人ひとりが安心して過ごせる「居場所」を再構築することを目的とした。

2. 活動のまとめ

全校生徒を対象に「共感力」をテーマにしたワークショップを実施。特に、いじめ問題に直面したクラスでは、被害生徒を含むグループで、心理カウンセラーの指導のもと、安心して本音を語り合える対話の場を設けた。また、いじめの加害者と被害者を含むクラス全体で、「つながる」ことの重要性を話し合う道徳授業を複数回実施した。

3. 挙げられた成果

- ①ワークショップを通じて、生徒の約8割が「他者の気持ちを考えるようになった」と回答し、共感力が高まった。
- ②いじめが起きていたクラスでは、活動開始から2ヶ月後、いじめに関する報告がゼロになった。
- ③特に、被害生徒は活動を通じて複数の友人と本音を話せるようになり、教室で過ごす時間が増えるなど、孤立が解消された。

【実践の目的・ねらい】

1. いじめの未然防止
2. 被害生徒の心の回復支援
3. 生徒同士の支え合い(ピアサポート)
4. 安心できる「居場所」の再構築

【活動の全体像】

1. 全校生徒向けワークショップ(共感力)
2. いじめ発生クラスでの対話の場(カウンセラー同行)
3. 道徳授業で「つながる」ことを考える
4. 自主運営の「心のカフェ」設置

【活動の時系列・1学期）】

5月：道徳授業（いじめをテーマにロールプレイング）

6月：教師研修（カウンセリングスキル）

7月：有志生徒によるピアサポート開始

【活動の時系列・2学期】

9月：いじめ発生クラスで毎週「対話の場」

10月：担任による個別面談

11月：全校向け「共感カワークショップ」

【活動の時系列・3学期）】

- 1月：学級ごとの振り返り会を実施
（ピアサポート活動で得た気づきを共有）
- 2月：全校アンケートで活動成果を検証
- 3月：成果発表会を開催し、保護者・地域にも公開
→ 学校全体で「共育」の実感を共有

【補足】

1. 各学期の取り組みの中で、特に重点を置いたことなど
2. 進行をしていく中で、軌道修正をしたことなど

【具体的な取り組み 活用教材など】

1. 道徳授業「つながる教室」

→ 材料文を活用し対話的学習を展開

→ 『もし自分が○○さんなら?』と問いかけ

2. ピアサポート「心のカフェ」

→ 昼休みに生徒による自主運営

→ 安心できる居場所として定着させていった

【活動によって起きたクラスの変化・得られた成果】

1. 生徒の約8割が共感力向上を実感

2. いじめ報告件数がゼロに(活動2か月後)

3. 被害生徒の孤立解消、友人関係回復

【多かった生徒の声】

加害経験のある生徒：「話を聞いて自分の言動を反省できた」

被害経験のある生徒：「安心して話せる友だちができ、登校が楽になった」

見守っていた生徒：「クラスの雰囲気少しずつ変わり、居心地が良くなった」

ピアサポート参加生徒：「他学年の友だちとも交流できて、学校に来るのが楽しみになった」

担任に相談できなかった生徒：「心のカフェでは先生不在でも安心して話せた」

グループ活動に積極的な生徒：「対話を重ねることで、人の気持ちを考える力がついたと思う」

【考察】

1. 指導だけでは不十分 → 生徒同士のつながりが重要
2. 教師がファシリテーターとなり安心の場を形成
3. 加害生徒も対話を通じて自己を振り返る機会を得た

【今後の展望】

1. ピアサポートを学校の年間計画に組み込む
2. 教員向けファシリテーター研修の実施
3. 保護者・地域への公開で共育体制を強化

【補足】

実践上の注意事項など